

風薫る5月に吹く爽やかな風を「薫風（くんぷう）」という。これは、私にとって2校目の勤務校となるH中学校で出していた学級通信のタイトルだった。3校目の勤務校では、生徒指導主事となり、学級担任はしていなかった。そこで、薫風は、生徒指導だよりのタイトルとなった。

その後、イタリアのローマ日本人学校に行くことになった。そこでは、学級担任をしていたが、学級通信を出すことは許されなかった。そこで、考えた。生徒一人一人と交換ノートのようなものを始めた。そのノートの表紙には、薫風の文字があった。

日本に戻り、F中学校では学級担任となった。そこでまた考えた。学級通信は出したい。以前は年間100号と決めていた。しかし、私には願望があった。学級通信を毎日出してみたい。無謀な試みであることはわかっている。だが、今までに毎日学級通信を出す素晴らしい先輩に出会ってきている。自分もやってみたい。憧れの先輩に少しでも近づきたい。

やるなら今だろうという結論に達した。問題はタイトルである。自分は、ずっと薫風とともに教員人生を歩んできている。ここで、タイトルを変え、毎日出すことに挑戦することも考えた。だが、薫風の二文字に別れを告げることはできなかった。

薫風は、F中学校の学級通信が最後となった。タイトルとしては消えたが、すべて製本され残っている。この前、東日本大震災以来の大きな地震があり、10年ぶりに書斎の本棚が倒れ、悲惨な状況となった。しばし呆然とした。だが、なぜだか沸々とやる気が出てきた。一念発起し、数日間をかけて不要なものを処分し、必要なものを項目ごとにファイルし直した。膨大な教育書も使いやすく配置を変えた。

作業の途中で、運悪く製本された薫風に出合ってしまった。こうなると、しばらくは作業は中断となる。懐かしく読み返した。あっという間に時は過ぎた。点と点がつながるように記憶が蘇ってきた。読み返すと、自分の未熟さ、力不足を思い知らされるところもある。それでも、薫風は自分の教員としての大事な足跡なのである。

時は移り、梁川高校に勤務することになった。県北地区高体連バドミントン専門部の部会長となった。バドミントンの大会に行ってみた。すると、薫風の大きな文字がプリントされたTシャツを着ている先生がいる。気になった。なぜ薫風なのか。バドミントンの大会会場には不似合いなような気もした。

きっと、この先生には薫風への思い入れがあるに違いない。そう信じて、勇気を出し、本人に聞いてみた。「どうして、先生のTシャツは、薫風なのですか」すると、私にとっては意外な答えが返ってきた。「これは、バドミントンのメーカーなんです」そうなんですかというしかなかった。バドミントン関係者なら、誰でも知っていることを私は聞いてしまったのである。

私のイメージでは、薫風とスポーツが結びつかない。そこで、調べてみた。会社案内には、「薫風（クンプー）は、『軽くて』『しなる』にこだわったバドミントン製品メーカーです。多くのバドミントンプレイヤー様が、一度薫風のバドミントンラケットの打球感を味わうと、もう他のラケットは使えなくなります」とあった。

そうだったのか。次の年には、この薫風の先生が、バドミントン専門部長となり、私が頼りにし一番お世話になる先生となるのだから、不思議である。

薫風の季節は、山々の緑が色づき、エネルギーが満ち溢れるときである。今年は桜の花がそうだったように、例年よりも薫風の季節が早く訪れたように感じる。淡い緑に濃い緑と、緑一色の中にも様々な色があり、それだけできれいである。5月は、自分にとって大切な時期である。そう思っ、今年も努力したい。